

## 農業者の支援（担い手育成支援 等）

アナ： 「市長が語る 2020 三島」第16回の今日は、「農業者の支援」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： まずお話を聞く前に、新型コロナウイルスの影響が気になりますが、農業への影響はいかがですか。

市長： そうですね。学校給食や外食産業の自粛等の影響で家庭内消費が伸びたので、野菜については、影響は比較的小さいと伺っております。しかしながら、牛肉や花、お茶の需要は低迷しており、一部の農家では大きな影響を受けたと聞いています。市としても、国の支援制度をフル活用しつつ、支援の方法を検討しているところです。

アナ： そうですか。私たちも、地元の農畜産物の消費を心がけて、少しでも農家の皆さんの支援に繋がりたいと思います。さて、今日のテーマは「農業者の支援」についてですが、三島は農業の盛んな地域だけに、いろいろな支援策があると思います。具体的には、どのようなことに、力を入れているのでしょうか。

市長： 農業分野の喫緊の課題は、「担い手の確保」と「労働力の確保」になります。農業においても、高齢化とそれに伴う労働力不足が、大きな課題となっており、生産量を維持し、産地を守っていくためには、担い手の確保と労働力の確保は重要な課題です。

アナ： 高齢化が、農業分野でも進んでいるんですね。私たちの大切な食糧を供給してくれている農業ですから、ぜひとも頑張ってもらいたいですね。

市長： そうです。そのためにも「担い手の確保」が重要で、担い手の確保のため、新たに就農したい方への支援に力を入れています。就農するまでには、「農地の確保」、「ハウスやトラクターなどの購入に係る資金の確保」、「営農技術の習得」など様々なハードルがあり、また、就農してからも経営が安定するまでに時間がかかります。三島市では国の「農業次世代人材投資事業」を活用しながら、平成25年度から、毎年一人程度、他の産業から農業への新規参入を増やしています。

アナ： 「農業次世代人材投資事業」とはどのような内容ですか。

市長： まず、就農を希望される方は指導農家で約1年間の農業研修を行います。そして、その農業経験をもとに5年間の農業経営計画を立てていただき、それが認定されると、経営が不安定な就農初期の5年間、国から最大150万円の給付を受けることができます。また、市・県・JAで連携し、経営や農地、営農のプロによるサポートチームを組み、経営の自立までを手厚く支援します。

アナ： なるほど。相談できる体制が整っているというのは心強いですね。

市長： はい。農業は自然との闘いの連続であり、農業者になるには強い意志と覚悟が

**必要です。地道な新規就農支援ではありますが、将来、この方たちが規模拡大し、三島の農業を担う農業者に成長されることを期待しています。**

アナ：　そして、「担い手の確保」とともに重要な「労働力の確保」ではどのような取り組みをしていますか。

市長：　三島市には家族経営の農家が多く、やはり高齢化に伴い、家族外の労働力が必要になっている状況があります。そのため、三島函南 農福連携支援連絡協議会を関係機関で立ち上げ、農家の農作業を福祉事業所で働く障がいをお持ちの方が請け負うシステム作りに取り組み、労働力の確保に繋げています。

当初は、福祉と農業は分野が全く違うため両者に戸惑いもありましたが、昨年度は、19件の農家において延べ309日、福祉事業所の皆さんに農作業に従事していただきました。農業分野においては人手不足の解消、福祉分野においては障がいがある方の職域の拡大に繋がっており、両者にとってWinWinの関係が広がりつつあるところです。

アナ：　農業では、将来を見据えた中で、産地の維持の方策に、関係機関が連携して取り組んでいることが良くわかりました。

美味しい新鮮な野菜が、すぐ近くで生産され、食べることができるこの三島は、食に恵まれた良い街だなと感じますし、その背景に皆さんのご努力があることがわかりました。今日は貴重なお話をありがとうございました。

市長：　ありがとうございました。